

勝林寺寺報

心の眼をひらく

愛知県のある大学に勤めておられた宇野正一さんからお聞きしたお話を。宇野さんは大正時代の初めに生まれましたが、まもなく母親が悪性の風邪で亡くなりました。そこで、宇野さんは祖父母に引き取られて養育されることになりました。

そのお爺さんは、真宗念佛の教えを学んで、とても信心深い人であります。だから宇野さんは、幼いころから、毎朝仏壇におまいりすることをしつけられ、「仏さまにお参りしてたら母親にあうことができる」と教えられていたといいます。

お爺さんは、毎日田んぼで働いていましたが、いつもその田んぼを拵んでいたといいます。またその田んぼに苗を植えた時には「苗をお預けしますのでよろしくおねがいします。」といって拵んでいました。またいつも口癖のように「食べ物さまには仏さまがござる」といつておりました。そして食事の時に、あやまってご飯をこぼすと、「食べ物さまには仏がござる」といつて、どんなに汚れていても、水で洗って食べることをしつけられたそうです。宇野さんのお爺さんは、そういう生き方をした人であります。

その宇野さんが小学校五年生のことです。田舎の小学校に顕微鏡が届きました。理科の先生が、その顕微鏡でいろいろのものを拡大して見せてくれました。そこでこの宇野さんは、いつもお爺さんが「食べ物さまには仏がござる」というが、ご飯粒の中には、どんな仏さんがいるのだろうか、それを見たいと思いました。そしてお昼の弁当の残りのご飯粒を、顕微鏡にかけて何度もぞいてみましたが、何も見えませ

んでした。金色に輝く仏さまが見えてくると思つたのに、そんなものは一向に見えませんでした。そこで理科の先生にそのことをたずねたら、先生は大声で笑いながら、「きみのお爺さんのいふことは迷信だ。そんなものが、食べものの中に入っているわけがない」といいました。そこで宇野さんは家に帰ると、さつそくお爺さんにそのことを言って、「お爺さんはうそをついていたね」といいました。するとお爺さんは、大きな声で「この罰あたり」といしながら、仏壇の扉を開けて泣き出したということです。宇野さんは、今もその時の、お爺さんの悲しそうな後ろ姿は忘れることができないといわれています。

宇野さんは成長されたのち長年にわたつて小学校の教員をされていましたが、今にしてこの祖父の教えが身にしみて思われてくる、今日の学校教育にいちばん欠けているものは、この祖父が身体をかけて教えてくれたものの見方である、と申されました。

これから時代においては、ことにこのような見方こそ、いつそう大切になつてくると思われます。物質はいいよ豊かになりましたが、心の世界はますます貧しくなつてきた今日の社会において、私たちのそれぞれの家庭がともにむつまじく、幸せに生きていくために、そしてこの地球環境がいつまでも美しく保存されてゆくためにも、このようなものの見方は、忘れてはならない重要なことだと思います。

仏法を学ぶとともに、またこののような心の眼を通してみると、そういうものの見方にいて、今まで見えなかつた世界に新しく眼を開き、何かが見えてくるということだけなりません。浄土真宗とは、お仏壇を大切にし、念佛を申しつつ、そういう心の眼を育てる教えであります。

(信楽峻磨遺稿法語集「開光」より)

勝林寺の年中行事の日程が決まりました

さる一月十七日の代議員会で、本年度の行事計画が承認されましたので、ご報告いたします。今年も皆で仏さまに手を合わせ、念佛して、心の眼を育てましょう。

一月一日 修正会（お正月のお参り）

三月二十一日 春季彼岸会法要

四月十一日 観桜会（お花見会）

五月五日 花まつり（お萩迦様のお誕生を祝う子どもたちの会）

五月二十三日 降誕会（親鸞様のお誕生会）

五月二十五日～二十六日 出石組念佛奉仕団

六月二十日～二十一日 納骨研修旅行

七月八日～九日 前坊守二五回忌法要

七月二十五日 八月八日 孟蘭盆会（戦没者追悼法要）

八月十九日 九月二十三日 子ども研修会

十月二十四日 十一月二十一日～二十二日 敬老報恩講

十一月・十二月～一月 報恩講法要

十二月三十一日 除夜会 各家庭報恩講

葬儀一月二日

町分 森井 俊之様 六十六歳

福知山 谷垣 なつ様 九十六歳

二月 勝林寺 予定

一日（日） 石田和義宅 一二回目

二日（月） 西本 一周回

六日（金） 臨時組内会

七日（土） 仏壯総会

八日（日） 角折幸江宅 二回目

九日（月） 中嶋庄二宅 二三回目

一日（水） 仏婦評議員会

二日（土） 森井由美子宅 忌明

三日（日） 湯口真由美宅 一周忌

六日（木） みのりを聞く会

（敬称略）



わたしの生きてきた昭和③

—動乱の中の学び—

戦中戦後の動乱の期間、私にとっては、自由またない期間であったと思います。下宿の近くにあった書店にあった安い文庫本（主に西洋近代の小説類）を片端から読みました。学校では「論語朱注講義」、有賀先生の「キリスト教理史」、玉木先生の「源氏物語講読」「教行信証購読」など。聽講の生徒は、まだ復員してこず少なかつたし、私はいつも一番正面の席で、真剣勉強しました。私の生涯で一番幸せな期間であつたと思います。卒業論文も先生に密着して仕上げました。毎朝、先生が京都駅につかれるのを待つて、学校までの道々指導を仰きました。昭和二十三年三月、私は大学を卒業しました。

出石に帰つてからは勝手気まま、諸橋徹二の大辞典などを購入して、主に日本近代文学を手当たり次第読んで楽しんでおりました。一

利きで出石の豊岡高校定時制出石分校に奉職することになりました。大学卒業の時に高校国語と社会の免許を取得していました。実は、それを教えたりする整理された知識や技術などは、全く身についていませんでした。

就職後すぐ、大掛かりな「免許切り替え研修」が県の教育委員会主催で応急的に行われました。わりあい長期の研修でしたが、戦時教育から新規の道を説くのですが、あまり迫力はなく、ただ黙つて聞くというものでした。中で私の関心を買ったのは、心理学の講義でした。歐米の心理学。今までのそれは、人の心理の分析解釈。新しいアメリカのロビンソンやロジャーズの心理学は、来談者中心。来談者の自己変革を期待援助するだけ。あくまでも来談者の人格を尊重しようというものです。これは、心理学だけの

ものではなく、教育全体の問題と私は解釈しました。その講師に三日間、私の家に来ていました。

戰中、徹底して論議しました。また、私が神戸に

出かけて教育研修所で学びました。それだけで同級の教授は、アメリカに留学して直接学んでいました。また出身校の龍谷大学の西光義敵とい

ました。出かけて教育研修所で学びました。それだけで同級の教授は、アメリカに留学して直接学んでいました。また出身校の龍谷大学の西光義敵とい

ました。出かけて教育研修所で学びました。それだけで同級の教授は、アメリカに留学して直接学んでいました。また出身校の龍谷大学の西光義敵とい

ました。出かけて教育研修所で学びました。それだけで同級の教授は、アメリカに留学して直接学んでいました。また出身校の龍谷大学の西光義敵とい

ました。出かけて教育研修所で学びました。それだけで同級の教授は、アメリカに留学して直接学んでいました。また出身校の龍谷大学の西光義敵とい

拝むこと

おもてなし

おもてなし